

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」
～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

<本年度の学力向上基本方針>

確かな学力を身につけ、生き生きと学ぶ児童の育成
「だれもがわかる喜び・できる喜びを実感できる指導の工夫」

<本年度の学力向上策>

- 1 基礎学力の向上と確実な定着
 - (1) 「ていねいに字を書くこと」「ていねいに話を聴くこと」の継続的指導
 - ・学習のための落ち着いた教室環境づくり
 - ・話を聴く姿勢の徹底。
 - (2) 「さわやかタイム」の充実
 - ・朝の時間にグローバル・スタディ、国語・算数の学習をモジュールで取ることにより、授業時間の確保に努め、基礎学力の定着を図る
 - (3) 家庭との連携・地域の教育力の活用
 - ・「家庭学習カード」の活用による家庭学習の定着
- 2 教員の指導力向上
 - (1) 児童一人ひとりの実態に応じた指導と学習規律や学習ルール of 徹底
 - ・ユニバーサルデザインによる教室環境と学習ルール「三橋の約束」の徹底
 - ・TTによる学習指導と個に応じた指導による指導形態の拡充
 - (2) 授業力の向上
 - ・「よい授業」集計システムを活用した授業の振り返り
 - ・掲示物の充実による言語環境の整備と児童のよさを認める掲示物の充実
- 3 教育課程の編成・実施・評価（PDCAサイクルの実践）
 - (1) 学校課題「基礎学力向上～国語科を中心に～」の研究
 - ・授業ノートの基本モデルを示したり、授業の流れを統一したりし、指導の改善・充実を図る。

<本年度の振り返り>

- 1 ○ていねいに字を書くこと・聴くことを常に意識させた授業が実践できた。(児童アンケート85%) さわやかタイムの充実、家庭学習の推進をしてきた結果、市学習状況調査では、同一集団経年比較では多くの学年で向上が見られた。
- 2 ○学習規律の徹底、教室環境の整備、個に応じた指導を行ったことにより、保護者83%、児童98%が「先生は工夫して分かりやすく教えている」とアンケート結果が得られた。
▲TTの指導形態のみだったので、今後は少人数指導等の形態について検討していく。
- 3 ○国語の研究授業を低中高学年で行った。市教委の指導主事からの助言や研究協議で授業の評価・改善を行い、三橋小の授業スタンダードを確立することができた。

